

2025年10月24日安威川ダム周辺で観察した植物

作：岡田弘

フサフジウツギ（房藤空木）ゴマノハグサ科フジウツギ属＊花期＝6～9月

英名は**ブットレア**、花の香りに誘われて多くの蝶が集まるので、この紹介は2度目ですが皆さんお忘れになっていますので再度紹介します。名前の由来＝花が藤の花色に似て淡紫色で多くの花を付ける、葉は空木に似ているのでウツギとなった＊花言葉＝魅力・信仰心・あなたを慕う、恋の予感。中国西部原産の帰化植物、関西では六甲山系に多い、いつ頃渡来したかは不明、葉は対生で卵状楕円形、表面は無毛、裏面は毛が密生して白い。花は円錐花序をだし淡紫色の小さな花を多数つける、稀にう白色麻ある、園芸種では多くの色がある。有毒植物



コマツナギ（駒繫）マメ科コマツナギ属＊花期＝7～9月

名前の由来＝茎が丈夫で馬を繋ぎ止めることが出来るのでの説。又、葉が美味しいので馬の足が留まる、栄養価も高い。の説、コマツナギの茎はそんなに丈夫でない、後の説が有力。落葉小低木で1m未満、原産地アフリカ、日本では本州～九州に分布、水気の少ない乾燥地を好み道端に多く自生、葉は1cmほどの楕円形で奇数羽状複葉、右の写真の様に真ん中先端に1枚葉があるので奇数となる。葉や花は山菜として揚げ物やお浸しとして食べることが出来ます＊花言葉＝希望をかなえる。



アカメガシワ（赤芽柏）トウダイグサ科アカメガシワ属＊花期＝6～7月

名前の由来＝新芽が鮮紅色で目立ち葉がカシワの様に大きくなることから。「カシワ」とは、葉を食べ物を蒸す時に使ったことから「炊く葉」が転訛したものです。又、カシワの葉の無い地域ではアカメガシワの葉で柏餅を作ったことから、赤い芽の柏となったとの説。雌雄異株、下の方の葉の葉柄が長く伸びて光合成をしているのが目立つ、熱帯から暖帯の植物で常緑であったが落葉性になることで温帯で生育できるようになった、日光を好み、林縁や道端に自生しているパイオニア植物。日本では北海道を除く全域に分布、葉や樹皮に薬効がある、樹皮は乾燥させたものを煎じて飲み胃腸薬に、葉は乾燥させて入浴剤としてアセニに効果がある、樹皮と葉を煎じて飲むことで得る薬効もある。



クサキ（臭木）シソ科クサギ属＊花期＝7～9月

名前の由来＝枝や葉に独特の匂いがあることから。落葉低木で日本全国に分布しているパイオニア植物、葉は対生全縁、若い枝や葉裏に柔らかい毛が密生している、葉や枝を傷付けると名前の如く臭気が出る。花は枝先の葉腋から長い柄のある蓇葖花序を作り甘い香りがする白い花を多数咲かせる。名前とは違い利用価値が多い、成長した葉はアクや苦みが強いので若葉を使う、臭いが強い時は一晩水に晒す和え物、炒め物、煮びたし、天ぷら、で食べることが出来る、茹でた葉を乾燥させ保存でき、使うときに水に戻す。薬用樹としても、花の咲く前の枝葉を天日乾燥したのを生薬、臭梧桐（シュウゴトウ）と称されて、高血圧予防薬、神経痛、に薬効があると言われる、草木染めでは、果実を使い媒染剤なしで鮮やかな空色に染まる、赤い罫からは、鉄媒染を使うと渋い灰色に染めることが出来る。果実には毒性があるので注意が必要です。

＊花言葉＝運命的な出会い・運命・治癒



アレチマツヨイグサ（荒地待宵草）アカバナ科マツヨイ属＊花期＝7～9月

今回観察できたのは、花の終わった種子を付けた茎が草地の中に立っていた。名前の由来＝荒地や河原などに多く繁殖して自生しているので「アレチ」宵が来るのを待って花が咲くので「マツヨイグサ」となる。明治後期に渡来していたが戦後急速に広がり、今では日本全国に分布している北アメリカ原産の2年草、荒地や河原。路傍などに生え、草丈30～150cmにもなり茎の下の方から多数の枝を出す、茎には毛がある、花は径5cm位の黄色、夕方開いて朝しぼむ、時には残っているものもある。花卉4枚でしぼむと橙色になる。＊花言葉＝ほのかな恋・移り気・静かな恋。



その他、多く観察した植物、

・オオエノコログサ・アキノエノコログサ・メリケンカルガヤ・ナルトサワギク（特定外来植物）セイタカアワダチソウ（特定外来植物）・メドハギ・リュウゼツサイ・コニシキソウ・クズ・マルバハギ・コセンダングサ・イタドリ・メヒシバ・オヒシバ・アキノメヒシバ・ヨモギ・セイバンモロコシ・ススキ・カタバミ・オッタチカタバミ・サルスベリ・アラカシ・シラカシ・タチスズメノヒエ、他多数。